

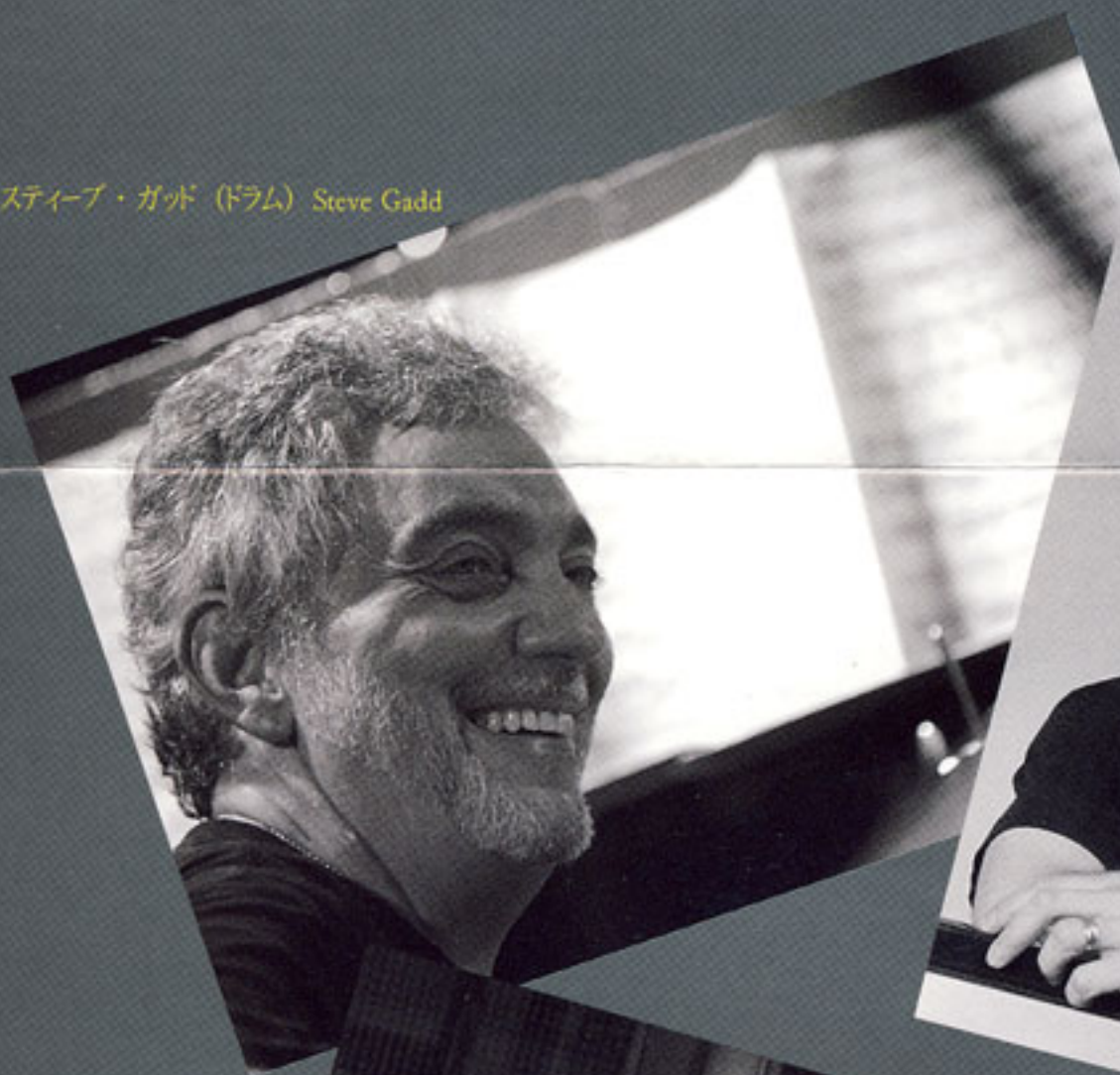
Ensemble of the ARTS

古美術 柳井 創業 75 周年記念ジャズコンサート

開演：2009（平成 21）年 3 月 4 日（水）午後 6 時（開場 5 時）

会場：熊本 ホテル キャッスル 2 階 キャッスルホール

スティーブ・ガッド (ドラム) Steve Gadd



ピーター・ストルツマン (ピアノ) Peter Stoltzman



エディ・ゴメス (ベース) Eddie Gomez



マリニスト Mika (マリンバ) Marimbist Mika



Mika Marimba Madness featuring Steve Gadd, Eddie Gomez and P) Stoltzman

Mika Marimba Madness

featuring Steve Gadd, Eddie Gomez and PJ Stoltzman

スティーブ・ガッド (ドラム) Steve Gadd

テクニカルなジャズと親しみやすいロック/ポップスの要素を融合させた“フュージョン”という音楽スタイルは、70年代に誕生して以来、多くのファンの耳を虜にしてきました。その発展を支えたのが、やはり多くの優れたミュージシャンたちであることは疑うべくもありません。スティーブ・ガッドは、その中でも最重要人物と呼ぶにふさわしいプレイヤーです。1945年にニューヨーク州ロチェスターで生まれた彼は、ドラマーであった祖父の影響で幼いころからドラムに親しみ、音楽大学で打楽器を専攻。20代半ばからプロのセッション・ドラマーとしての活動を始めました。現在までに共演したミュージシャンは数知れず、主なところではチック・コリア、グローヴァー・ワシントンJr、ジョージ・ベンソン、アル・ジャロウ、デヴィッド・サンボーン、ステイシー・ダン、アル・ディメオラ、ポール・サイモン、マンハッタン・トランスファーなど。その一方で、スタッフ・マンハッタン・ジャズ・クインテット、自身が率いるガッド・ギャングといったグループ活動も行っています。最近では、昨年惜しくも他界したジャズ・ピアニスト、ミシェル・ペトルチアーニのトリオにおける名演や、エリック・クラプトンのツアー・メンバーとしてのプレイが絶倫に新しいところ。リズムカルな躍動感と滑らかな流れを合わせた彼のプレイは、多くのドラマーに影響を与えています。特に、ツブ立ちの揃ったオープン・ロール (1拍の中でいくつ音を出すのかをハッキリと決め、左右のスティックでそれぞれ2つずつ交互に叩く奏法) は、万端の独壇場といえるでしょう。また、長年にわたるヤマハのドラムを使い続けていることでも知られており、彼ならではの締まった音色は、ヤマハ・ドラムサウンドの代名詞としても定着。97年には、彼の全面協力の下に開発された、スティーブ・ガッド・シグネチャー・スネアが発売されています。ホームページアドレス (<http://www.drstevegadd.com/>)

エディ・ゴメス (ベース) Eddie Gomez

エディゴメスは1960年代半ばのデビュー以来ジャズシーンの先頭を歩いてきた。彼の感動的な経歴には、ジャズ界の巨匠ビル・エバンス、マイルス・デイビス、ディジー・ガレスピー、ゲリー・マリガン、ベニー・グッドマン、チック・コリアとの共演などがある。ゴメス氏のユニークなサウンドとスタイルは、ジャズ、クラシカル、ラテン、フォークそしてポピュラー音楽の世界にまで及ぶ何百回ものレコーディングで聴くことができる。エディはブルトルコで生まれ、幼い頃家族と一緒にニューヨークに移住。彼は11歳の時ダブルベースへの道を開くことになる。ジュリアード音楽院で学び同期生には、チック・コリア、ヒューバート・ローズ、ジェームス・レバイン、イザック・パルマン、ゲリー・カーがいる。ゴメス氏は、ビル・エバンストリオで11年間を通じ、トリオは世界中をツアーし2回のグラミー賞受賞を含む何十回ものレコーディングを行った。ゴメス氏は1960年代の終わりに、マイルス・デイスクインテットで、ウェイン・ショーター、ハービー・ハンコック、トニー・ウィリアムズと並んで演奏した際、自分には別の夢があることに気づきビル・エバンストリオを離れた。現在はブルトルコ音楽院、オーバーリン音楽院などの客員教授として後進の育成に努めながら、ジャンルを超えた音楽で尚世界各地で演奏活動しているベースの巨匠の一人であることに間違いはない。

ピーター・ストルツマン (ピアノ) Peter Stoltzman

1999年、パーカー音楽院を卒業。その後ニューヨークでヨスヴァニー・テリーをはじめ多くの著名な演奏者と共演、またレコーディングを行っている。2004年にはニューイングランド音楽院ジャズ作曲科で修士課程を取得。若くしてハリウッドボウル、カーネギーホール、モントリオールJAZZフェスティバルなどに出演して、スタンフォードJAZZワークショップの講師も努めている。これまで自身の3枚セットCD、BMG等でCDリリース。現在テキサス大学オースティン校で講師を務めながら積極的に演奏活動も展開。世界有数のクラリネット奏者、リチャード・ストルツマンを父親に持つピーターは、彼と共にロンドン、デンマーク、イタリヤ、日本など世界中で活躍している。ホームページアドレス (<http://www.peterstoltzman.com/>)

マリニスト Mika (マリンバ) Marimbist Mika

現在はニューヨーク拠点に活動。2007年1月3度目となるニューヨーク・カーネギー ZANKEL ホールのリサイタルはチケットがソールドアウトして観客総立ちの大成功を収めた。東京でのリサイタル (王子、トッパン、朝日演劇宮ホール) も各誌で高い評価を得ている。「PASIC2005、2007 (全米打楽器協会国際コンベンション)」に世界を代表するマリニストの一人として招聘されコンサートを行う。地元九州でも熊本と福岡で2000年～2008年まで毎年ニューイヤーリサイタル開催。これまでに2枚のソロCDをリリース。現代作曲家S・ラヒのCDに日本人で初めて編曲・演奏「東京/バーモントカウンターポイント」が収録され世界中でリリース。久石譲、リチャード・ストルツマン氏のCD録音にも参加。クラクワ室内管弦楽団、ソノ・ヘイ交響楽団、九州交響楽団、熊本交響楽団と協演。2005年ドキュメンタリー1時間番組「マリンバ イズ マイライフ」(KKT製作) 熊本と福岡で放送。1999年熊本文化懇話会新人賞受賞。2000年トント大学上級演奏家コース首席修了後、熊本・天草を拠点にしながら、これまでに世界9ヶ国アメリカ10州で公演。これまでの主な共演者としては、S・ガッド、ツム・ヤマシタ、NEXUS、R・ストルツマン、渡辺香津美、E・ゴメス、2代目高橋竹山、渡辺真知子、W・ランソム、P・ストルツマン、B・ダグラス、カクラバ・ロビ、VEGA 弦楽4重奏、エバーグリーン現代ガムランなど世界中のさまざまなジャンルの著名なアーティストと共演して独自のスタイルを模索中。「アイランド・マジック (天草国際音楽祭)」を2005、7、8年と総合プロデュース。来春はSteve Gadd, Eddie Gomez, R・Stoltzman, P・J・Stoltzman とライブ録音したCDがスマイルプロジェクトにより発売。またS・GaddプロデュースによるNewCDプロジェクトが予定されている。米「ProMark」(Mika Yoshida シグネチャーマレットを発売) 米「デ・マロウマリンバ」契約アーティスト。ホームページアドレス (www.mikarimba.com)

Ensemble of the ARTS

古美術 柳井 創業 75 周年記念
ジャズコンサート

開演：2009 (平成 21) 年 3 月 4 日 (水) 午後 6 時 (開場 5 時)

会場：熊本 ホテル キャッスル 2 階 キャッスルホール

お問合せ：(有)柳井商店 〒860-0807 熊本市下通り2-3-5 TEL 096-325-0871

協力：山下七保子

ホテル キャッスル